

マルナカだより 春号

東日本大震災より5年 ～遅い復興・止まらぬ風化～

平成23年(2011年)3月11日14時46分 宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。大きな揺れに伴い発生した津波は高さ9メートルを超え、東北地方を中心に太平洋側の地域に大変大きな被害をもたらしました。

今年1月、福島県の震災による死者1613人の身元

は全て確認されたと福島県警からの発表がありました。身元不明遺体がゼロになるのは岩手・宮城・福島の被災3県で初めてとなります。また、被災し、プレハブ仮設住宅に住む宮城県岩沼市の住民が、入居5年の期限となる4月28日までに全て退去する意向を示しています。予定通り撤去が完了すれば、宮城県は5月にも仮

設住宅解体に着手予定で、県内の津波被災地で仮設住宅が解消されるのは岩沼市が初めてとなります。

震災直後47万人いた避難者数は今年1月29日時点の復興庁の調査報告では、全国で約17万8千人まで減少しました。しかし、被災3県の人口減少は止まりません。なかでも福島県では震災前にも少子高齢化の影響で人口減少はありましたが、震災による原発問題もあり昨年1月の時点で震災前に比べ約9万人も減少しています。平成25年4月以降、転入・転居などで一時的に増加する現象は見られますが、震災により減少し

人口の回復には至っていません。避難生活を余儀なくされている方のうち約10万人が福島県の避難者で、帰還のめどさえ立たない方もいます。

岩手県が1月25日公表した「復旧・復興ロードマップ」で、宮古市の閉伊川や陸前高田市の気仙川など4カ所の水門工事が県の復興計画最終年度の2018年度より遅れる見通しとなり、大槌町では復興工事への影響が懸念されています。防潮堤や水門などの海岸保全施設について住民からは安全面を考慮し「早くできれば」と願う意見が上がる一方、「新設だから仕方が

ない」という納得や「2年も3年も一緒」という諦めの声も。

大槌川と小槌川の水門工事が遅れる大槌町では、水門がないままで住宅再建を進めるか、住民にとっては不安材料にもなります。同町大槌の仮設団地で暮らす女性(65)は「発表のたびいろいろな工事が遅れ、早まったことはほとんどない。震災後1,2年のころは早く早くと思っていたが、5年もたつてここまできると諦めムードが出てきた」と語る。

宮古市では閉伊川水門が20年度末完成となった。自宅を建て直した同市の女性(36)は「しっかりとした施設整備のために仕方がないと、思う気持ちもある」と納得す

る半面、「安心して暮らせる生活が遠のき、やはり遅れは残念だ」と嘆く。

道路や施設、交通面などインフラの復旧は割と早く進んだ印象を受けます。しかし住宅移転先の高台の造成の遅れもあり、それから仮設住宅で暮らす方々の住まい

建設・移りが始まり、街づくりが始まります。

時間の経過とともに日常生活を取り戻すことができている人も多い反面、まだまだ困難な状況の中、復興への長い道のりを覚悟しながらも必死に頑張っている人がたくさんいます。

「30cm」の津波でも人間は流される

・津波は海底から海面までの水が一気に陸地へ押し寄せる現象なので、たとえ30cmの津波でも、屈強な人でさえ簡単に流されてしまいます。

・津波は、家や自動車、停泊している船なども簡単に押し流すため、警報や注意報が発表されたらすみやかに高台など安全な場所へ避難しましょう。

小さな揺れの地震でも津波は押し寄せる

・明治三陸沖地震(1896年)では震度4程度の揺れでしたが、その後に押し寄せた津波で約2万人を超える方が亡くなったので、沿岸付近に住んでいる方は小さな揺れでも津波に対する警戒

が必要です。

ハザードマップで浸水エリアを確認する

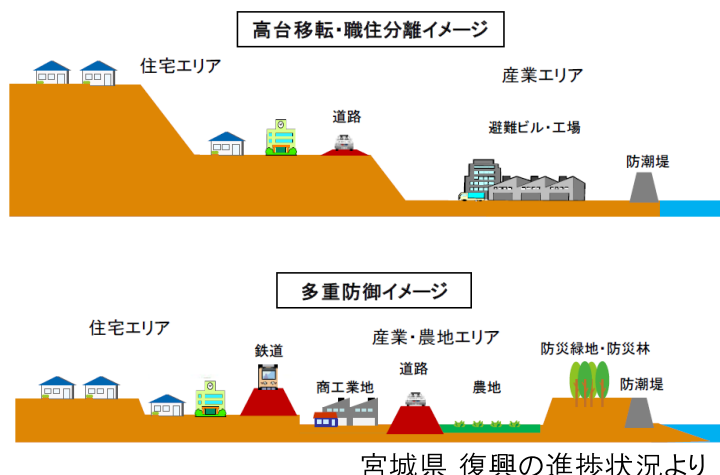
・津波による浸水被害が想定されている地域では、自治体がハザードマップを作成しているので、事前に浸水地域や避難場所、避難経路などを確認する。※ただし、ハザードマップはあくまで「予想」であるため、予想を超えた津波が押し寄せた場合は、浸水エリアが大幅に拡大するおそれがある。気象庁から警報や注意報が発表された場合は、すみやかに高く安全な場所へ避難するなど、安全を最大限考慮した行動が重要となります。

東日本大震災で日本赤十字社に寄せられた義援金は震災から20日間しかな

かった2010年度だけで981億円に上り、翌11年度は2165億円に達しました。しかし、14年度は34億円、15年度(12月18日時点)は16億円と、急速に減少しています。義援金が全てではありませんが、このことから風化が進んでいるのが分かります。世の中が2020年の東京オリンピックに目を向けていますが、その翌年は震災10年目を迎えることを忘れてはいけません。多くの犠牲により得られた教訓を忘れず次の世代へ伝える。それが今を生きる私たちの務めではないでしょうか。

【引用・抜粋】

河北新報オンラインニュース
岩手日報、NAVERまとめ
Yahoo JAPAN 防災速報



宮城県 復興の進捗状況より

買ったばかりのLED電球が切れる

長寿命を謳っているLED電球がすぐに切れると話題になっています。

販売当初に比べ最近ではLED照明製品も安くなりました。家電量販店、ホームセンター、ネット通販などで有名無名含め多くのメーカーが様々なラインナップを出すとともに大量に流通するようになりました。

LEDと呼ばれ光っている部分は「LEDチップ」という部品で、この部品の寿命が40,000時間や50,000時間とされています。しかし、製品になるとLEDチップ以外にも様々な部品が使われることとなります。それらの部品の組み合わせで製品が構成されているのですが、その製品を構成している部品の1つでも壊れたら、その時点で光らなくなります。いわゆる「球切れ」という状態です。

大手メーカーが大量に部品を仕入れることで製造単価を下げ安くするのであれば良いのですが、安い粗悪な部品を使うことで安く仕上げることも多々あるようです。発光のキモになるLEDチップはそれなりの部品を使わなければ、照度や色などですぐにクレームが来てしまうので製造メーカーも悪い物は使わないけれど、それ以外の部品のレベルを下げていることも。

また、器具に適合していない電球を選んでしまっている場合もあります。

- ①口金のサイズを確認する。口金は大きくE26・E17の2種類です。
- ②光の色、角度を選ぶ。光の色は主に昼光色・昼白色・電球色の3種類、角度は全方向タイプ・下方向タイプの2種類です。リビングやダイニングなどは全方向タイプ、手元や足元に明るさが必要なトイレ・廊下・階段などは下方向タイプがお勧めです。
- ③使用する器具を確認する。電球が直接見えない密閉型器具、調光機能が付いた器具、建物の防音および省エネルギー対策のため、断熱材を天井などに敷きつめる場合がありますが、そのような器具内温度が高温になる環境下でも施工可能な照明器具を断熱材施工器具にはそれぞれ対応のLED電球があります。対応していない一般のLED電球を付けると、破損・発煙・短寿命の原因となります。

【抜粋】無電極ランプ(LVD)／LED比較解説、Panasonicホームページ

(株)マルナカホーム

〒223-0057

横浜市港北区新羽町896

TEL 045-547-3434

FAX 045-545-9935

http://www.marunaka.tv/

ご用命の方はフリーダイヤルへ
フリーダイヤル

0120-28-45-28

どんなに小さなことでも遠慮なく御相談下さい 鈴木



急増中の【リフォーム詐欺】 ご注意ください

各家庭を訪問したり、電話勧誘など言葉巧みにリフォームを進める【リフォーム詐欺】が急増しています。新聞やテレビなどのメディア報道、取り締まりにより一時減少したと思われた【リフォーム詐欺】はどうして増え始めたのでしょうか。

老後の住まい方を模索している60代

親の介護や定年、自身の老い、子供たちの独立とライフスタイルが変わり長年住み慣れた家をリフォームするかどうか考え始める60代。立地のいい手ごろなマンションなどに住み替える人もいます。中には早々に有料老人ホームへの入居を考える人もいます。80・90代まで生きる人も多い時代、60代はこれからの住まい選びに迷う時期です。そんな時、詐欺師たちはどこで調べるのか定年後に退職金を手にした世帯を回ります。

「無料で床下の点検を行います」や「シロアリ検査無料キャンペーン中」、「■■■円で排水の高圧洗浄行います」など普段気になっていることや自分ではできにくいことだったりするから「じゃあ、この機会に」「親切に話を聞いてくれる」と、つい色々な質問や相談をしてしまい、気が付いたら契約をしてしまっていたということになりかねません。

契約後、一定期間内なら契約解除できるクーリングオフ制度もありますが、それも工事着工前の8日間程度です。詐欺業者は翌日から工事に取り掛かり有無を言わせない状況を作り出すこともあるそうです。2015年に住宅関連事業者が特定商取引法違反で行政処分を受けた数は21件。悪質リフォームが社会問題になって取締りを強化した2006年の倍になっています。”コツコツ貯めて一気に失う”最悪のパターンは避けるようにしたいものです。突然の業者訪問でその場ですぐに契約することは避け、見積もりは数社からとって検討するようにしましょう。

広い家のリスク

60代では広すぎる家をコンパクトにする減築する人も増えています。ある住宅メーカーが老後の理想の住まいについて55歳から69歳までの年代の人にアンケートを取ったところ、平屋が理想という人が最も多く50%、続いてマンションが30%、二階建てが20%だったといいます。階段の上り下りが大変になり、二階にあった寝室を一階に移すなどして使用している人も多くいます。その時空いた二階の部屋に不要なものまで取っておくと物置となり、片づけることもなくなります。二階が重くなると地震の時の

揺れも大きく、長くなります。上に重いものがあればバランスが悪くなり、大地震が起きた時に最悪倒壊という確率も高くなります。二階での生活が難しくなる前に不要物の処分、寝室の移動などすべての生活を一階で広く快適に過ごせる準備をしましょう。大きい家具や重たい荷物の移動など人に頼む場合は不要物のリサイクルなどを検討し、その費用を捻出するなど工夫も必要です。

キッチン・浴室やトイレなどの住設機器は新しい機能が追加され、年齢性別関係なく使用しやすいものになっています。各種メーカーのショールームなどで現物を見て使用感や安全性・快適性など確かめてみるのもいいでしょう。機器だけでなく、窓や床などの断熱性能をあげ寒くない家も検討できます。収納も出しやすく仕舞いやすい、どこに入れたかわかりづらいなど適所収納で改善することもできます。まだ判断力・対応力・適応力のある60代のうちに住まい方を検討してみたいかでしょうか。

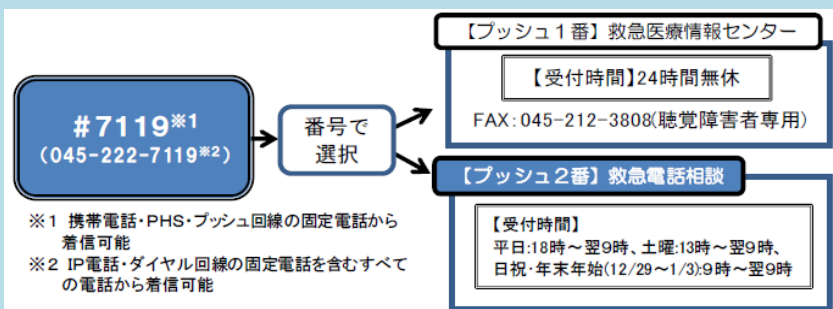


参考資料：マネーの達人

全年齢に対応した救急電話相談の開始

平成28年1月15日(金)18時から、#7119という短縮電話番号により、小児から成人までの全年齢に対応した救急電話相談を開始しました。

急な病気やけがで、医療機関へ行くか、救急車を呼ぶか迷った時に#7119へかけると、看護師が聞き取った相談者の症状に基づき、緊急性や受診の必要性などの判断を行い、受診可能な医療機関の案内や119番への転送をしてくれます。



※#7119の通話料金は、一般の固定電話にかけた時にかかる通話料金と同額です。(発信者負担)

※これまで、受診可能な医療機関の案内(☎201-1199)看護師による小児の救急電話相談(☎201-1174)の2つのサービスを実施していた#7499(☎227-7499)については、当面、#7119に転送されます。

OPEN YOKOHAMA 横浜市救急相談センター 平成28年1月15日(金) 18時サービス開始!!

急な病気やけがで困ったときは…

☎ # 7 1 1 9

(携帯電話、PHS、プッシュ回線の固定電話)

または ☎045-222-7119 (すべての電話でご利用いただけます)

どこの医療機関で受診できるの?

お腹が痛い

音声ガイダンス開始後、プッシュ1番を選択してください。

そのとき受診可能な医療機関の案内
救急医療情報センター
年中無休 / 24時間対応
☎045-212-3808 (聴覚障害者専用)

医療機関へ行ったらいいの?
救急車を呼んだらいいの?

熱が下がらない
ギクッ!

音声ガイダンス開始後、プッシュ2番を選択してください。

症状に基づく緊急性や受診の必要性についてアドバイス
救急電話相談 看護師がお答えします
月曜～金曜: 18時～翌朝9時
土曜: 13時～翌朝9時
日曜・祝日・12月29日～1月3日: 9時～翌朝9時

緊急時はすぐに**119番**で救急車を呼びましょう!

パソコンやスマートフォンでも緊急性や病院受診の必要性を確認できます!

横浜市救急受診ガイド 横浜市救急受診ガイド 検索